

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	日本語特論 I	
科目基礎情報							
科目番号		0080		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		ビジネスコミュニケーション学科		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		プリント教材					
担当教員		高野 克宏					
到達目標							
①母語として無意識に使用している日本語を客観的に見つめ直す視点を身につける。 ②日本語の語彙・慣用表現等の知識を身につける。 ③コミュニケーションツールとしての日本語の洗練された運用法を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		各授業項目の内容を理解し、応用できる。		各授業項目の内容を理解している。		各授業項目の内容を理解していない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		日本語の語彙・慣用表現・文法等に関する基礎的な事項を学び、正しい日本語運用能力を養成する。					
授業の進め方・方法		中間試験、期末試験ともに50分の試験を実施する。 定期試験 7 0 %、課題および平素の成績を 3 0 %として総合的に評価し、 6 0 点以上を合格とする。					
注意点		授業内小テストを行ない、その結果を参考にして困難点や弱点となる事項を集中的に学ぶよう心がける。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	語彙（1）		同意語・反意語の用法を理解する。		
		2週	語彙（2）		同音異義・同訓異字・多義語の用法を理解する。		
		3週	慣用表現		ことわざ・慣用句の用法を理解する。		
		4週	授業内小テスト（1）		第 1 週から第 3 週までの内容に関連した試験を実施する。		
		5週	敬語（1）		敬語の仕組みの基礎を理解する。		
		6週	敬語（2）		敬語の具体的用法の例を理解する。		
		7週	敬語（3）		例題による演習により正しい敬語の用法を理解する。		
		8週	不適切な表現の添削（1）		例題による演習により正しい日本語の運用を理解する。		
	4thQ	9週	不適切な表現の添削（2）		例題による演習により正しい日本語の運用を理解する。		
		10週	不適切な表現の添削（3）		例題による演習により正しい日本語の運用を理解する。		
		11週	語順について		語順についての基本的考え方を理解する		
		12週	語順と句読点について		語順と句読点の関係について理解する		
		13週	句読点について		例題による演習		
		14週	難語		難語と特殊語彙について理解する		
		15週	授業内小テスト（2）		第 7 週から第14週までの内容に関連した試験を実施する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3		
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3		
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3		
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3		
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3		
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3		
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3		
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3		
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3		

				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0